

第34回泌尿器科漢方研究会学術集会

会長： 笈善行(香川大学医学部泌尿器科学教室)

会期： 2017/6/17 ~

会場： コクヨホール(東京都)

## 一般講演Ⅲ

座長： 昭和大学 小川 良雄

10. 慢性胃炎と皮膚炎を合併した骨盤臓器脱  
に対する漢方薬の使用経験(第2報)女性医療クリニックLUNAグループ・  
LUNA骨盤底トータルサポートクリニック<sup>1)</sup>・ 女性医療クリニックLUNA心斎橋<sup>2)</sup>横浜市立大学大学院医学部 泌尿器病態学講座<sup>3)</sup>○ 関口 由紀<sup>1)</sup>、中村 綾子<sup>1)</sup>、中村 仁美<sup>1)</sup>、前田 佳子<sup>1)</sup>  
藤崎 章子<sup>1)</sup>、二宮 典子<sup>2)</sup>、矢尾 正祐<sup>3)</sup>

【はじめに】 補中益気湯は、補脾益気の代表的方剤で、骨盤臓器脱の漢方治療の第一選択薬の一つである。同様の補脾益気の代表処方である六君子湯や四君子湯とは、構成生薬の多くはオーバーラップするが、残念ながら、効能又は効果に“胃炎”の効能がない。全国的に、慢性胃炎を合併した骨盤臓器脱に補中益気湯を投与しても、慢性疾患と認められなくなってしまった。しかし慢性胃炎を合併した骨盤臓器脱に対する補中益気湯のニーズは大きく、今回代替処方を考えて、使用してみたので報告する。

【方法と対象】 2016-2017年にLUNA 骨盤底トータルサポートクリニックを受診した保存的に経過をみている慢性胃炎を合併している骨盤臓器脱患者5名に対してツムラ四君子湯5.0g合ツムラ升麻葛根湯5.0g加オウギ(末)2g、トウキ(末)2g 2×朝夕食前を投与した。漢方投与と並行して、リングベッサリーの自己着脱指導と骨盤底筋リハビリテーションを行った。

【結果】 重篤な副作用はなく、全員内服することができた。4名は骨盤臓器脱のグレードが改善した。

【考察】 ツムラ四君子湯合ツムラ升麻葛根湯加オウギ(末)、トウキ(末)は、補中益気湯の柴胡が葛根に変更された処方、日本国内で流通するエキス剤と生薬末で処方可能で、慢性胃炎の適応が通る処方である。消化器が弱い骨盤臓器脱の患者の骨盤底リハビリテーションと併用して、試してみる価値のある処方であると考えられる。